

2015年8月23日 主日礼拝メッセージ メルボルン日本語キリスト教会 柏倉秀吉

聖書：マルコ 1:9-12

タイトル：「主イエスの受洗」

マルコ 1：9－12 初めてイエス様が登場する。

9v「そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来られ、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。」

「そのころ」とは、文脈的にバプテスマのヨハネが悔い改めのバプテスマを宣べ伝えているころ(1:4-8)である。さらに6vに「**・・イナゴと野蜜を食べていた**」とある。イスラエルでイナゴが出る時期は3月頃の春になる(「後の雨/春の雨」の時期)で、9vの「そのころ」とは、3-4月頃と言えよう。イエスはその頃ナザレからバプテスマのヨハネのところへ出かけて行ったのである。

その距離はグーグルマップで見るところ約124kmである(多少の誤差はあるだろう)。休みなく歩けば25~6時間の距離であるが、さすがに125-6kmをノンストップで歩いたとは考えにくい。おそらく休憩をきちんと取りながら、洗礼者ヨハネのところへ向かったと考えられる。単純に考えても3日以上はかかったであろう。それでも一日平均41-2kmくらいは歩くことになる。イエスの旅は車で20-30分などという決して簡単な旅では無かったのである。

ところでイエスはこの旅行を一人でしたのだろうか。1：5には「**ユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民**」とある。当時、「ユダヤ」とは主にヨルダン川の西側(ガリラヤ(ナザレ)、サマリヤなど)の地域を指していた。時にイスラエル全土を指すこともあった(ルカ1:5)が、マルコは「ユダヤ」という言葉を3：7で再び使っている。彼はこの時の「ユダヤ」を、ガリラヤ(ナザレ)の地域と区別し、イスラエルの南端地域のことを指している。であれば、マルコ1：5の「ユダヤ全国」とは、主に南端地域の人々を指す可能性もある。その場合、イエスはいったいどこで「洗礼者ヨハネ」のことを聞いたのだろうか?などという疑問も出てくる。

だが、ヨハネの福音書1:35-40を見ると、洗礼者ヨハネの弟子の中に、ガリラヤ出身のペテロの兄弟であるアンデレがいたことが記されている。よって、洗礼者ヨハネのことはガリラヤ地域まできちんと届いていたことがわかる。そうしたことから、イエスが洗礼者ヨハネのところに向かった時は、ある程度の人々が一緒になって、旅をしてきたのではないだろうかと推測される。

もしかするとナザレでの良き友と一緒にだったかもしれない。あるいは旅の途中で良き友が出来たかもしれない。両親と一緒にだったかどうかは分からないが、別々であってもイエスが両親にもきちんとそれなりの挨拶をして、出かけたことは容易に想像できる。

こうしてイエスは長旅を経て洗礼者ヨハネのところまで来て、受洗したのである。

10-11v「そして、水の中から上がられると、すぐそのとき、天が裂けて御霊が鳩のように自分の上に下られるのを、ご覧になった。そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

不思議なことが3つ起こった。

①天が裂け②御霊が鳩のように下り・・③天から声がした。のである。

①天が裂けるとは、人間が出来るわざでは決してない。神がそのことを成したのである。神は天を裂くというわざを通して、神ご自身を表してくださったのである。

②御霊が鳩のように自分の上に下られ・・・

御霊が下ることについては、ペンテコステで弟子たちの上に「炎のような分かれた舌が現れてひとりひと

りの上にとどまった」(使徒 2:3-4) とも記されている。

しかしイエスの場合、わざわざ「鳩」のように記されている。「鳩」には帰巢性(その場所・飼い主のところへ戻ってくる性質)がある。そのことが分かっていたので、ノアも洪水の後「鳩」を使用している。10vの「御霊が鳩のように下」とは、「その帰るべきところであるイエスのところに帰った。」ということである。すなわち帰巢したのである。御霊が帰るべきところは、神のところ以外あり得ないのである。それがイエスなのである。

こ時の御霊が「現れてとどまる」のではなく、「帰巢すべき神、イエスのところへと帰った」とは、ペンテコステの出来事の時と実に大きな違いがある。ここに御霊ご自身とイエスとの関係がはっきり記されているのである。

③天から声がした。

「あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」

これは、イザヤ 42:1「見よ。わたしのささえるわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。・・・」の預言の言葉のことである。

イザヤは当時、偶像礼拝を捧げている者達と神の御言葉に聞き従わない民の間に「わたしが選んだ者」が現れることを預言した。更にこの「選んだ者」とは、後のイザヤ 53 章に記されている「苦難のしもべ」のことでもある。

イザヤ 53:1-10「私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現れたのか。彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。」

これこそイエスの十字架である！

イザヤが 42:1 で預言した「選んだ者」とは、まさに苦難のしもべの到来のことであり、イエスの受洗

はそのイザヤの預言の成就である。

この預言の成就を通して、イエスこそが来るべきお方であることが明らかにされたのである。

さて、イエスが洗礼を受けこの現象が起こった時、周りで見えていたであろう多くの者や、あるいは一緒にガリラヤやナザレから来ていた人々はどのように思ったであろうか。または後にイエスの両親はどう思ったであろうか。

ある人がキリスト者として生まれ変わった時、それがあまりにも顕著であったり、または行き過ぎ（見る側の尺度で）だと思われてしまった場合、周囲に肯定的に受け入れてもらうことは困難ではないだろうか。多くの場合、キリスト者として立つ前の自分を知っている人々から『昔はこうだったのに…』、『変わっちゃったね』、『何かお高く留まっているね。』と思われたりすることがあるのではないだろうか。また両親から『ほどほどにきなさいよ。』と言われることもあるだろう。イエスに至ってもそれは同じである。後に母親がイエスを訪ねてきたという聖書の内容からも伺える。

この受洗を通してイエスには劇的な変化があった。それはここから始まる福音宣教からも分かる。

イエスはそれほどの決意をして、あの 125-6 k mの旅路を歩いてヨハネのところまで来たのである。

しかし、もしその信仰が周りの者の言葉によって翻弄されるならば、それはなんと悲しいことだろうか。

そういう者は自分の信仰、洗礼の意味をどのように考えているのだろうか。

イエスは、決してそうした中途半端な思いを持って、あの 125-6 k mの旅路を歩いて来たわけではない。

イエスは、神の御心を一心に求め、見つけ、そこから目を離さなかったのである。

私たちも御心を求めていくことが無ければ、信仰はただの面倒なモノになってしまい、さらには不要なモノ、二の次三の次になり、最終的には元の生活のままでも良いという生き方になっていく恐れがあるのではないだろうか。マルコはこの 1:9-11 に、イエスの受洗に信仰の劇的な変化があったということを記したのではないだろうか。

洗礼とは、それまでの私達を劇的に変えるほどの信仰の決意である。周囲の人々に様々な事を言われて信仰がしぼんでいく、あるいは見えなくなっていくというものであってはならない。御心を見つめ続けるその時にこそ、私達には苦難に打ち勝つ力が与えられるのである。

最後に二箇所

ヘブル 10:38-39 「わたしの義人は信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、わたしのこころは彼を喜ばない。私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。」

イザヤ 42 : 1 - 4

「見よ。わたしのささえるわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々に公義をもたらす。彼は叫ばず、声をあげず、ちまたにその声を聞かせない。彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともなく、まことをもって公義をもたらす。彼は衰えず、くじけない。ついには、地に公義を打ち立てる。島々も、そのおしえを待ち望む。」